

### 3) 慢性心不全症例における Dibutyryl cyclic AMP 製剤 (アクトシン) の急性効果について

広川 陽一・山本 賢 (三之町病院内科)  
 貝津 徳男 (同放射線科)  
 渋谷 真 (燕労災病院 循環器内科)  
 渡辺 賢一 (同放射線科)

慢性心不全症例12名に対し Dibutyryl cyclic AMP 製剤 (DCAMP) の急性効果について検討した。全例に Swan-Ganz カテーテルを挿入し、DCAMP 0.1mg/kg を60分間点滴静注し、血圧、心拍数、心係数 (CI)、1 回拍出係数 (SI)、全末梢血管抵抗 (TSR)、肺動脈圧 (PA)、肺動脈楔入圧 (PAW)、頸動脈波形より PEP/ET、投与前後で RI 心プールシンチにより左室駆出分画 (EF) を計測し、変動を観察した。投与後、血圧低下、心拍数増加、CI 増加、SI 増加、TSR 減少をみた。PA、PAW はほぼ不変であった。また PEP/ET の改善、EF の増加を認めた。DCAMP は細胞膜を直接通過し、cyclic AMP と同様の生物学的活性を有する。本剤は心収縮力増強と after load 減少をもたらすため慢性心不全症例に投与することは臨床上有用であると考えられた。

### 4) 慢性心不全患者におけるザモテロールと $\beta$ -ブロッカーの効果の対比

畠野 達郎・政二 文明 (桑名病院 循環器内科)  
 渡辺 賢一 (燕労災病院 循環器内科)

【目的】拡張型心筋症に及ぼす、 $\beta$ -partial agonist (Xamoterol (X)) と、 $\beta$ -blocker (Metoprolol (M)) の効果を、同一患者において非侵襲的検査を用いて対比した。【対象】X が有効であり継続投与中であった NYHA II~III の DCM 患者 5 名。【方法】X 投与期間中に Holter 心電図、心エコー、Treadmill 等を施行しその

後Xを中止した。3日後Mを開始し、開始5日後と4ヶ月後に同様のデータを記録した。【結果とまとめ】1. Metoprolol (M) 投与4ヶ月後で、5名中3名に症状は増悪し、2名で不変であった。2. Holter 心電図の最大心拍数、1日総心拍数はいずれも Xamoterol (X) よりMで強く抑制された。最小心拍数はX投与で増加する傾向があった。3. M投与後長期的な自覚症状は悪化する傾向があったが、心エコー所見は不変ないしむしろ改善傾向にあった。4. 運動負荷時の心拍数および血圧はXに比較してMで抑制されたが運動耐容能には一定の傾向が見られなかった。

### 5) 新しい Inodilator である Pimobendan の使用経験

津田 隆志・藤田 俊夫  
 田中 吉明・鈴木 正孝  
 堀 晴雄・小玉 誠  
 和泉 徹・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

今回、慢性心不全の治療薬として強心作用と血管拡張作用を併せ持つ Inodilator である Pimobendan (以下 P) の慢性心不全患者に対する使用経験について報告する。

1) 8例の慢性心不全患者に対する急性投与では、HR の増加と SBP, PAW, PAP, RAP, SVR, TPR の低下を示し、CI の増加傾向を認めたが SI, DP, AV-O<sub>2</sub>diff., PaO<sub>2</sub> には差を認めなかった。2) 4例の慢性心不全患者に対するPの慢性投与効果を Washout test を用いて評価した。全例、P慢性投与により自覚症状の改善を認め、中止により HR, SBP, DP に変化なく、PAP, RAP, TPR, AV-O<sub>2</sub>diff. は増加させ、CI, SVR の有意な悪化を認めた。再投与により心行動態の改善を認めた。1例では、P慢性投与による強心効果を確認した。

以上より、Pは慢性心不全患者に対し強力な急性血管拡張作用を示し、慢性投与にても持続効果を認めた。また、慢性投与により強心効果も期待しうる。